

Oracle® Business Intelligence

Infrastructure クイック・インストレーション・ガイド

リリース 10.1.3.2

部品番号 : B52934-01

2009 年 1 月

ORACLE®

原本名 : Oracle Business Intelligence Infrastructure Quick Installation Guide, Version 10.1.3.2

原本部品番号 : B31764-01

Copyright © 2008 Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空、大量輸送、医療あるいはその他の本質的に危険を伴うアプリケーションで使用されることを意図しておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるとしてプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましたとしても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle, JD Edwards, PeopleSoft, Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があり得ます。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

はじめに

このマニュアルで説明されている各種サービスは日本オラクル社から提供されるサービスです。サービスは、製品をご購入された日本オラクル正規代理店各社から提供される場合もありますが、サービス内容はこのマニュアルの説明と異なることがあります。

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition（このマニュアルでは Oracle BI と呼びます）を本番環境にインストールする前に、またはご使用のコンピュータに Oracle ソフトウェアがすでにインストールされている場合は、次のドキュメントを参照してください。

- 『Oracle Business Intelligence Infrastructure インストールレーションおよび構成ガイド』
- 『Oracle Business Intelligence Enterprise Edition リリース・ノート』

このマニュアルは、システム管理者、ネットワーク管理者、アプリケーション・サーバー管理者および開発者を対象にしています。

『Oracle Business Intelligence Infrastructure クイック・インストールレーション・ガイド』を、『Oracle Business Intelligence Infrastructure インストールレーションおよび構成ガイド』のかわりに参照しないでください。クイック・インストールレーション・ガイドでは、次のデプロイメント・タイプを対象とした Oracle Business Intelligence の基本を説明することを目的としています。

- 新規インストール。このマシンにソフトウェアがインストールされている場合は、『Oracle Business Intelligence Infrastructure アップグレード・ガイド』を参照してください。
- 単一のコンピュータ（ネットワーク・デプロイメントではない）で、事前定義済の設定を使用。
- Windows オペレーティング・システムのみ。
- Oracle 9i、10g または Microsoft SQL Server 2000 データソースのみ。
- 「Basic」インストール・タイプの選択。Oracle Application Server Containers for J2EE（OC4J）で実行される Oracle BI スイート全体がインストールされます。
- クラスターリングなし。

表 1 に、『Oracle Business Intelligence Infrastructure クイック・インストール・ガイド』の内容を示します。

表 1 このマニュアルの内容

章	内容
第 1 章 「ご注文内容の確認」	
第 2 章 「要件」	第 2.1 項 「Oracle BI コンポーネントのインストール・オプション」 第 2.2 項 「システム要件の確認」 第 2.3 項 「サード・パーティ製品のインストール」 第 2.4 項 「DEP 設定の変更」
第 3 章 「インストール」	第 3.1 項 「Windows での Oracle BI インストーラの実行」 第 3.2 項 「Oracle Business Intelligence インストーラの初期化」

表 1 このマニュアルの内容 (続き)

章	内容
第 4 章 「構成」	第 4.1 項 「デモ・アプリケーションの使用」 第 4.2 項 「Oracle BI Scheduler について」 第 4.3 項 「Oracle BI Scheduler データベース および表の作成」 第 4.4 項 「特定のデータベース用の Oracle BI Scheduler データベースおよび表の作成」 第 4.5 項 「Oracle BI Scheduler に対する Oracle データベースの構成」 第 4.6 項 「Oracle BI Scheduler に対する SQL Server データベースの構成」 第 4.7 項 「詳細な構成」
第 5 章 「追加情報」	
第 6 章 「その他の情報」	
第 7 章 「ドキュメントのア クセシビリティについて」	

1 ご注文内容の確認

メディア・パック受領後、ただちに同梱の Packing List をもとにパッケージ内容物を確認してください。破損、欠品、不明な点などのお問合せは、本製品をご購入された日本オラクル正規代理店、もしくは Oracle Direct までお寄せください。

メディア・パックには、このマニュアルの他に次の製品が同梱されています。

- 製品メディア

製品メディアには、製品をインストールするためのソフトウェアおよび README ファイルが含まれています。

- Start Here CD (赤いレーベル)

Start Here CD には、インストール・マニュアル、リリース・ノート、お役に立つインターネット・リンクおよびメディア・パックに関する情報が含まれています。

- Documentation CD

Documentation CD には、オラクル製品のオンライン・ドキュメントが含まれています。

注意： メディア・パックによって、Start Here CD や Documentation CD が同梱されていない製品があります。Packing List を参照して確認してください。

2 要件

この項では、Oracle Business Intelligence のインストールにおける、インストール前の要件について説明します。

2.1 Oracle BI コンポーネントのインストール・オプション

Oracle Business Intelligence Infrastructure は、Oracle Business Intelligence アプリケーションの構築に使用される各種のサーバー、プログラムおよびツールで構成されています。

Oracle Business Intelligence 製品に付属するインストーラ・プログラムでは、Oracle BI スイート全体、または1つ以上の Oracle BI 製品コンポーネントをインストールできます。表 2 に、Oracle BI Infrastructure のコンポーネントを示します。これらのコンポーネントのインストールには、「Complete」インストール・オプションを使用します。

すべてのインストール・オプションおよびインストールされるコンポーネントの一覧は、『Oracle Business Intelligence Infrastructure インストールガイド』を参照してください。

表2 Oracle BI Infrastructure のコンポーネントとインストール・オプション

インストール・オプション インストールされる Oracle BI コンポーネント

Complete	<ul style="list-style-type: none">■ Oracle Business Intelligence Server■ Oracle Business Intelligence Presentation Services■ Oracle Business Intelligence Scheduler■ Oracle Business Intelligence Server Administration Tool■ Oracle Business Intelligence Job Manager■ Oracle Business Intelligence Cluster Controller■ Oracle Business Intelligence Presentation Services Plug-in■ Oracle Business Intelligence Catalog Manager■ Oracle Business Intelligence Publisher■ Oracle Business Intelligence Client■ Oracle Business Intelligence ODBC Driver■ Oracle Business Intelligence JDBC Driver■ Oracle Business Intelligence Systems Management■ Oracle Business Intelligence Disconnected Client
----------	--

注意: サポートされるハードウェアおよびオペレーティング・システムのバージョンの詳細は、Oracle Technology Network の『Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition システム要件およびサポートされるプラットフォーム』を参照してください。

2.2 システム要件の確認

Oracle Business Intelligence をインストールする前に、表 3 に示すように、企業システムにおけるインストールと構成に必要な権限が付与されていることを確認してください。

表 3 Oracle BI のインストールに必要なシステム権限

システム・コンポーネント	権限タイプ
Windows	個々のマシンの管理者
データベース	DBMS 管理者

2.3 サード・パーティ製品のインストール

Oracle Business Intelligence インストーラを実行する前に、表 4 に示すサード・パーティ・ソフトウェアがすべてインストールされている必要があります。

インストールまたは構成が必要なサード・パーティ・コンポーネントの数は、対象となるデプロイメントの詳細に応じて異なります。サード・パー

ティ・ソフトウェアのドキュメントは、サード・パーティ・ベンダーから入手できます (Java は Sun 社から、MDAC は Microsoft 社から入手可能)。

表 4 Oracle BI のインストールに必要なサード・パーティ・インストール

コンポーネント・インストール

注意

Java SDK 1.5.0 以上

注意： この製品のリリース名は、Java 2 Platform, Standard Edition 1.5.0 (J2SE Development Kit 1.5.0) でしたが、番号システムの変更によって、現在では 5.0 (J2SE 5.0) と呼ばれています。そのため、1.5.0 と 5.0 は同じプラットフォームおよび製品を表します。

Java SDK は、Oracle Business Intelligence インストーラを実行する前にインストールする必要があります。そうでない場合、インストールは実行できません。このソフトウェアがインストールされていない場合は、[第 2.3.1 項「Java SDK コンポーネントのインストール」](#) に示す手順に従ってください。

Java は、Oracle Business Intelligence のインストール先マシンにインストールする必要があります。

Java のインストール先ディレクトリはインストール時に必要となるため、この情報をメモしておいてください。次に例を示します。

```
<Drive>:\Program Files\Java\j2sdk1.5.0_06
```

表 4 Oracle BI のインストールに必要なサード・パーティ・インストール (続き)

コンポーネント・インストール	注意
Microsoft Data Access Components (MDAC)	<ul style="list-style-type: none"><li data-bbox="405 218 959 280">■ システムに MDAC がインストールされているかどうかを確認します。<li data-bbox="405 301 959 462">■ システムに MDAC がない場合は、第 2.3.2 項「Microsoft Data Access Components がインストール済であることの確認」に示す手順に従って、Microsoft 社の Web サイトからソフトウェアを入手してください。

2.3.1 Java SDK コンポーネントのインストール

1. 「Java Technology Downloads Home」ページ (<http://java.sun.com/downloads/index.html>) にナビゲートします。
2. 「Java Platform, Standard Edition (Java SE)」で「**J2SE 1.5.0**」を選択し、「Go」をクリックします。
3. 「Java SE Downloads」ページ (<http://java.sun.com/javase/downloads/index.jsp>) の「**JDK 5.0 Update 9**」で、「Download」をクリックします。

4. 「J2SE Development Kit 5.0 Update 9」 ページで「Accept License Agreement」を選択し、「**Windows Offline Installation, Multi-language**」リンクをクリックします。
5. 画面の指示に従って、ソフトウェアをダウンロードおよびインストールします。

2.3.2 Microsoft Data Access Components がインストール済であることの確認

Oracle BI Server コンポーネントをインストールする前に、Microsoft Data Access Components (MDAC) がインストールされている必要があります。MDAC では ODBC の全スタックが用意されており、Windows システム・コンポーネントとして多くのアプリケーションに組み込まれています。ご使用のコンピュータに MDAC がインストールされているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

Microsoft Data Access Components の既存インストールを確認するには

1. msdadc.dll ファイルおよび oledb32.dll ファイル (オプション) を検索します。
通常、これらのファイルは C:\Program Files\Common Files\System\OLE DB フォルダにあります。
2. 見つかったファイルを右クリックし、状況依存メニューから「プロパティ」を選択します。バージョン情報は、「バージョン情報」タブに表示されます。

MDAC のインストールが必要ない場合は、第 3.1 項「Windows での Oracle BI インストーラの実行」に進みます。Microsoft Data Access Components のインストールが必要な場合は、次の手順を実行します。

注意：どのバージョンを使用するかについては、Oracle Technology Network の『Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition システム要件およびサポートされるプラットフォーム』を参照してください。

Microsoft Data Access Components をインストールするには

1. ブラウザで、Microsoft 社の Web サイトにナビゲートします。
検索ボックスに「MDAC download」と入力し、[Enter] を押します。
2. 『Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition システム要件およびサポートされるプラットフォーム』で指定されているタイプに一致する MDAC タイプにナビゲートし選択します。
3. 画面の指示に従って、ソフトウェアをダウンロードおよびインストールします。

2.4 DEP 設定の変更

オペレーティング・システム：Windows 2003 および Windows XP

Windows 2003 および Windows XP オペレーティング・システムでは、デフォルトで、DEP（データ実行防止）がすべての Windows プログラムおよびサービスに対して有効にされています。Oracle BI Infrastructure インストーラを実行する前に、Oracle Business Intelligence コンポーネントのイン

ストールが成功するように、すべてのプログラムに対するデータ実行防止の設定をいったん無効化し、重要な Windows プログラムおよびサービスに対してのみ設定する必要があります。この手順を実行しないと、インストーラは完了しません。Windows 2003 または Windows XP オペレーティング・システムで Oracle BI インストーラを実行すると、インストーラによって DEP の無効化が求められます。

データ実行防止機能は、インストールの完了後に元の設定に戻すことができます。

データ実行防止の設定を変更するには

1. 「スタート」 → 「コントロールパネル」 → 「システム」 → 「詳細設定」 → 「パフォーマンス (設定)」 → 「データ実行防止」に移動します。
2. 「重要な Windows のプログラムおよびサービスについてのみ有効にする」ラジオ・ボタンを選択します。
3. マシンを再起動します。
4. 再起動後に、Oracle BI のインストールを開始します。

3 インストール

3.1 Windows での Oracle BI インストーラの実行

次の手順でインストーラを実行します。

1. インストール・ファイルにアクセスし、`setup.exe` プログラムを実行します。

インストール・プログラムのウィンドウが表示され、各画面に指示が示されます。それぞれの画面で、要求される情報を入力します。

次の画面に進むには、「次へ」をクリックします。前の画面に戻るには、「戻る」をクリックします。

2. 「Installation Location」および「Install Type」:

デフォルトのドライブ (C:¥) およびディレクトリを受け入れるか、「Browse」をクリックして変更します。

3. 「Install Type」は、Oracle Business Intelligence が実行されるアプリケーション・サーバー・インスタンスを表します。「Basic」タイプでは、Oracle Containers for J2EE (OC4J) が使用されます。

「Basic」を選択します。

4. Component Installation Type Selection:

デフォルトのコンポーネント設定タイプである「Complete」を選択します。

このオプションでは、表 2 「Oracle BI Infrastructure のコンポーネントとインストール・オプション」に示されているコンポーネントがインストールされます。

5. Application Server Selection:

Oracle BI Presentation Services が実行されるアプリケーション・サーバー・インスタンスを選択します。次の選択肢があります。

- Oracle Containers for J2EE (OC4J)

(今回インストールされる)

- Microsoft IIS

(このインストーラの実行前にインストールする)

注意: Microsoft IIS がインストールされていない場合、この画面は表示されません。

「Oracle Containers for J2EE (OC4J)」を選択します。

6. 「Location of JAVA_HOME directory」および「OC4J Administrator password」:

JAVA_HOME は、第 2.3 項で説明したバージョン 1.5.0 以上の Sun Java Development Kit のインストール先に割り当てられているシステム変数です。

管理者パスワードは 6 文字以上で、少なくとも 1 つの数字を含める必要があります。

18 Oracle Business Intelligence

7. 「Cluster Account Information」 および 「Services Startup Type」 :
このインストールではクラスタ環境でマシンを実行しないため、「Cluster Account Information」は空白のままにします。

Services Startup Type:

Windows サービスのスタートアップ設定を変更できます。デフォルトの設定は次のとおりです。

- Automatic: Oracle BI Server、Oracle BI Presentation Server および Oracle BI Java Host の場合。
- Manual: Oracle BI Scheduler および Oracle BI Cluster Controller の場合。

注意：「Services Startup Type」を「Automatic」に設定するということは、コンピュータの再起動時に Oracle BI Server サービスが自動的に起動されることを意味します。これによって、システム全体のパフォーマンスが影響を受ける場合があります。

8. Error Message Language Selection:

デフォルトは英語です。

英語以外の言語を選択するには、ドロップダウン・ボックスをクリックして目的の言語を選択します。

9. Pre-Installation Summary Information:

インストールされるコンポーネントが要約され（この一覧には表 2 と同じコンポーネントが表示される）、インストール先およびサイズが表示されます。

10. Installation Progress Bar:

11. Completion:

インストールの終わりに、「Accept」を選択してコンピュータを再起動するか、後で再起動します。

コンピュータを再起動せずに Oracle BI を実行すると、一部のサービスが正常に機能しない場合があります。

12. インストールが完了したら、第 3.2 項「Oracle Business Intelligence インストールの初期化」に進みます。

3.2 Oracle Business Intelligence インストールの初期化

インストール・プロセスの終了後にコンピュータを再起動しなかった場合は、Oracle Business Intelligence ソフトウェアを実行する前に、コンピュータを再起動する必要があります。

「Basic」インストール・タイプでは、Oracle Containers for J2EE (OC4J) が使用されます。OC4J コンポーネントの Java プロセスは、コンピュータの再起動時に自動的に再起動されません。Oracle Business Intelligence を起動する前に、OC4J プロセスを起動する必要があります。

OC4J の起動方法および停止方法の詳細は、<インストール・ドライブ>:\OracleBI\oc4j_bi ディレクトリにある Readme.txt ファイルを参照してください。

OC4J プロセスの起動および停止

- OC4J Java プロセスを手動で**起動または再起動**するには、Windows の「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「Oracle Business Intelligence」→「Start OC4J」を選択します。
- OC4J Java プロセスを手動で**停止**するには、Windows の「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「Oracle Business Intelligence」→「Stop OC4J」を選択します。

Oracle Business Intelligence を起動するには、Windows の「スタート」メニューから「プログラム」→「Oracle Business Intelligence」→「Presentation Services」を選択します。

4 構成

Oracle Business Intelligence の初期構成は、インストーラがインストール・プロセス時の入力に基づいて設定します。

ただし、Oracle BI Scheduler は、Oracle BI の実行前に構成する必要があります。そうでない場合は、Scheduler サービスの起動が失敗し、Delivers コンポーネントが動作しません。第 4.2 項「Oracle BI Scheduler について」を参照してください。

また、「Basic」インストールでデプロイしたデモ・アプリケーションも構成できます。第 4.1 項「デモ・アプリケーションの使用」を参照してください。

4.1 デモ・アプリケーションの使用

「Basic」インストール・タイプでは、リポジトリ (paint.rpd)、プレゼンテーション・カタログおよび XML データソースを含むデモ・アプリケーションがインストールされます。

paint.rpd ファイルは、<インストール・ドライブ>:\OracleBI\server\¥Repository ディレクトリにあります。リポジトリを管理または構成するには、次の手順を実行します。

1. paint.rpd ファイルをダブルクリックします。
2. 「User」フィールドが空白の場合は、「Administrator」と入力します。
3. 「Password」フィールドに、「Administrator」と入力します。

注意: リポジトリ (paint.rpd) のユーザー・パスワードは、Oracle BI Server のインストール実行日から 90 日後に失効します。管理者ユーザーのパスワードは失効しません。

4. Oracle BI Administration Tool で、リポジトリがオープンします。

注意: 「Menu」 → 「Help」 → 「Help Topics」をクリックして、Administration Tool 機能およびリポジトリの詳細が説明されている『Oracle Business Intelligence Server 管理ガイド』を参照してください。

4.2 Oracle BI Scheduler について

Scheduler のコンポーネントは次のとおりです。

- Oracle BI Scheduler Service
- Scheduler Job Manager
- コマンドラインから実行可能な schconfig.exe ファイル
- コマンドラインから実行可能な saschinvoke.exe ファイル

Scheduler では、単一の商用バックエンド・データベースを使用して、ジョブとそのインスタンスおよびパラメータに関する情報を格納します。Scheduler は、Oracle Business Intelligence をサポートするすべてのデータベースと連携できます。サポートされるデータベースの一覧は、『Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition システム要件およびサポートされるプラットフォーム』を参照してください。

表 5 に、Oracle Business Intelligence Scheduler によって使用されるデータベース表を簡単に説明します。スクリプトは、<インストール・ドライブ>:\OracleBI\server\Schema にあります。

表 5 Oracle Business Intelligence Scheduler によって使用される表

表の名前	表の説明
S_NQ_JOB	スケジュール済のジョブの情報の格納に使用されます。
S_NQ_INSTANCE	スケジュール済のジョブ・インスタンスに関する情報が格納されます。
S_NQ_ERR_MSG	正常に完了しなかった Scheduler ジョブ・インスタンスに関するエラー・メッセージが格納されます。
S_NQ_JOB_PARAM	スケジュール済のジョブの Scheduler ジョブ・パラメータに関する情報が格納されます。

表 5 に示されているデータベース表に加えて、スクリプトによって S_NQ_ACCT 表が作成されます。S_NQ_ACCT 表は、使用状況トラッキング機能によって使用されます。NQSSConfig.INI で使用状況トラッキングが有効化されている場合は、Oracle BI Server によって、使用状況トラッキングのデータファイルが生成されます。使用状況トラッキング・ファイルから情報を抽出し、リレーショナル・データベースの表にロードするサンプルの JavaScript が用意されています。S_NQ_ACCT 表には、会計データに関

するすべての情報が格納されます（使用状況トラッキングについては、『Oracle Business Intelligence Server 管理ガイド』を参照）。

次の手順では、Oracle Business Intelligence のスタンドアロン・デプロイメントに対して Oracle BI Scheduler を構成します。

4.3 Oracle BI Scheduler データベースおよび表の作成

表の格納用に新規データベースを作成するか、または既存データベースを使用することができます。

1. データベースおよび表を作成可能なデータベース管理者アカウントを持っていることを確認します。
2. データベースを作成するか、または既存データベースを使用します。
3. SAJOBS.xxx.sql（xxx はデータベース・タイプを表す）を実行して、Scheduler 表を作成します。

第 4.4 項「特定のデータベース用の Oracle BI Scheduler データベースおよび表の作成」の説明に従って、使用するバックエンド・データベースに対応した手順を実行します。

4. 使用状況統計を使用する場合は、SAACCT.xxx.sql で表を作成します。

4.4 特定のデータベース用の Oracle BI Scheduler データベースおよび表の作成

次の手順では、特定のリレーショナル・データベースを対象にしたデータベースおよび表の作成方法について説明します。

- Oracle Database Server
 - 第 4.4.1 項「Oracle Database Server 用の Scheduler データベースおよび表の作成」
- Microsoft SQL Server
 - 第 4.4.2 項「SQL Server 用の Scheduler データベースおよび表の作成」

4.4.1 Oracle Database Server 用の Scheduler データベースおよび表の作成

使用状況統計が必要な場合は、**SAACCT.Oracle.sql** で表を作成します。

1. 次の 2 つの方法のいずれかを実行します。
 - 新しいデータベースを作成し、S_NQ_SCHED という名前のユーザーを作成します。
 - 既存データベースの 1 つに、S_NQ_SCHED という名前のユーザーを作成します。
2. S_NQ_SCHED ユーザーに対して、パスワードを設定します。

3. Oracle Net 構成ツールを使用して、現行の S_NQ_SCHEDULED データベースに対し、このユーザー ID とパスワードで Oracle サービスを作成します。
4. SQL*Plus Worksheet または SQL*Plus ツールを使用して SAJOBS.Oracle.sql ファイルを開いてから、そのファイルを実行して Oracle Business Intelligence Scheduler 表を作成します。
5. SAACCT.Oracle.sql ファイルを開いてから、そのファイルを実行して会計表を作成します。

4.4.2 SQL Server 用の Scheduler データベースおよび表の作成

使用状況統計が必要な場合は、SAACCT.MSSQL.sql で表を作成します。

1. SQL Server Enterprise Manager を使用して、S_NQ_SCHEDULED という名前のデータベースを作成します。Oracle Business Intelligence 表の格納に使用するディスク領域が十分であることを確認します (Oracle Business Intelligence アプリケーションでは 500MB 以上が必要)。
2. 現行のデータベースとして S_NQ_SCHEDULED を使用し、SQL Query Analyzer で SAJOBS.MSSQL.sql ファイルを開いてから、そのファイルを実行して Oracle Business Intelligence Scheduler 表を作成します。
3. SAACCT.MSSQL.sql ファイルを開いてから、そのファイルを実行して会計表を作成します。

4.5 Oracle BI Scheduler に対する Oracle データベースの構成

Job Manager Scheduler 構成で使用するデータソース名は、[第 4.4 項「特定のデータベース用の Oracle BI Scheduler データベースおよび表の作成」](#)の手順 3 で作成した Oracle データベース・サービスの別名と同じにする必要があります。

Job Manager を使用してデータベースを構成する手順は次のとおりです。

1. Windows の「スタート」メニューから、Job Manager を起動します
（「プログラム」→「Oracle Business Intelligence」→「Job Manager」を選択）。
2. Job Manager で、「File」→「Configuration Options」を選択します。
3. 「Connection Pool」セクションに、データソース名に対応する Oracle データベース・サービスの別名を入力します。
ドロップダウン・リストから適切なデータベース・タイプ（たとえば、「Oracle 10g R1」）を選択します。
4. [第 4.4.1 項「Oracle Database Server 用の Scheduler データベースおよび表の作成」](#)で作成した S_NQ_SCHED ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
選択したデータベース・タイプに応じて、コール・インタフェースが自動的に更新されます。
5. Job Manager を終了します。

6. Windows の「スタート」メニューから、Oracle BI Scheduler Service を起動します
(「設定」 → 「コントロールパネル」 → 「管理ツール」 → 「サービス」を選択)。

4.6 Oracle BI Scheduler に対する SQL Server データベースの構成

Job Manager Scheduler 構成で使用するデータソース名は、第 4.4.2 項「[SQL Server 用の Scheduler データベースおよび表の作成](#)」で使用した、SQL Server の S_NQ_SCHED データベースに対する既存の ODBC データソース名 (DSN) と同じにする必要があります。

システム DSN のエントリがない場合は、次の手順に従って新しいエントリを作成します。

1. Windows の「スタート」メニューから、ODBC データソースアドミニストレータを起動します
(「設定」 → 「コントロールパネル」 → 「管理ツール」 → 「データソース (ODBC)」を選択)。
2. 「システム DSN」タブを選択し、「追加」をクリックします。
3. SQL Server ドライバを選択し、「完了」をクリックします。
4. 「SQL Server に接続するための新規データソースを作成する」ウィザードで、次の手順を実行します。
 - a. データソースの名前と説明を入力します。

- b. 「サーバー」 ドロップダウン・リストから対象の SQL Server を選択し、「次へ」をクリックします。
 - c. ログイン ID の信頼性のサーバー検証では、**第 4.4.2 項「SQL Server 用の Scheduler データベースおよび表の作成」** で作成した SQL Server データベースである S_NQ_SCHED 用に、適切な認証を選択します。「次へ」をクリックします。
5. 「既定のデータベースを以下のものに変更する」チェック・ボックスを選択し、ドロップダウン・リストから「S_NQ_SCHED」データベースを選択します。「次へ」をクリックします。
 6. 必要に応じて言語またはログ・ファイルの設定を更新し、「完了」をクリックします。
 7. 接続設定を検証するには、「データソースのテスト」ボタンをクリックしてから「OK」をクリックします。
 8. 「OK」をクリックし、ODBC データソース アドミニストレータを終了します。

4.6.1 Job Manager Scheduler 構成の更新

SQL Server の S_NQ_SCHED データベースを使用するように Scheduler を更新するには、次の手順を実行します。

1. Windows の「スタート」メニューから、Job Manager を起動します（「プログラム」 → 「Oracle Business Intelligence」 → 「Job Manager」を選択）。

2. Job Manager で、「File」 → 「Configuration Options」を選択します。
3. 「Connection Pool」セクションに、S_NQ_SCHED データベースに対して作成した DSN を入力します。

ドロップダウン・リストから適切なデータベース・タイプ（たとえば、「SQL Server 7.0/2000」）を選択します。

選択したデータベース・タイプに応じて、コール・インタフェースが自動的に更新されます。
4. [第 4.4.2 項「SQL Server 用の Scheduler データベースおよび表の作成」](#)で作成した S_NQ_SCHED データベースのユーザー名とパスワードを入力します。
5. Job Manager を終了します。
6. Windows 「スタート」メニューから、Oracle BI Scheduler Service を起動します（「設定」 → 「コントロールパネル」 → 「管理ツール」 → 「サービス」を選択）。

4.7 詳細な構成

BI Publisher の構成方法の詳細は、『Oracle Business Intelligence Infrastructure インストールおよび構成ガイド』の付録を参照してください。

このソフトウェアの使用方法に関する概要、推奨事項、リンクおよびチュートリアルについては、次に示すように、ソフトウェアのインストール先ドライブで「Oracle Business Intelligence Enterprise Edition (10.1.3.2) へようこそ」の Web ページにアクセスしてください。

<インストール・ドライブ>:\¥OracleBI¥index_bi_ee.html

構成の詳細、またはこのクイック・インストール・ガイドで扱われていない構成は、次のドキュメントを参照してください。

- 『Oracle Business Intelligence Infrastructure インストールおよび構成ガイド』
- 『Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理ガイド』
- 『Oracle Business Intelligence Server 管理ガイド』
- 『Oracle Business Intelligence Scheduler ガイド』
- 『Oracle Business Intelligence Answers, Delivers, and Interactive Dashboards ユーザーズ・ガイド』
- 『Oracle Business Intelligence Network Deployment Guide』

5 追加情報

この項では、次の内容について説明します。

- [製品のライセンス](#)
- [Oracle サポート・サービスへのお問合せ](#)
- [製品マニュアルの入手方法](#)

製品のライセンス

このメディア・パックに含まれている製品は、トライアル・ライセンス契約に基づき、30 日間、インストールおよび評価できます。ただし、30 日間の評価期間後もいずれかの製品の使用を継続する場合、プログラム・ライセンスをご購入いただく必要があります。

Oracle サポート・サービスへのお問合せ

Oracle 製品サポートをご購入いただいた場合、Oracle サポート・サービスに、年中無休で 24 時間いつでも、お問い合わせいただけます。Oracle 製品サポートの購入方法、または Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、Oracle サポート・サービスの Web サイトを参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/>

製品マニュアルの入手方法

Oracle 製品のマニュアルは、HTML および Adobe 社 PDF 形式で提供されており、入手方法がいくつかあります。

- メディア・パック内のディスク：
 - プラットフォーム固有のマニュアルは、製品ディスクに含まれています。マニュアルにアクセスするには、CD-ROM のトップレベル・ディレクトリにある `welcome.htm` ファイルを参照してください。
- Oracle Technology Network Japan の Web サイト：

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/>

PDF ドキュメントを表示するには、必要に応じて、Adobe 社の Web サイトから、無料の Adobe Acrobat Reader をダウンロードしてください。

<http://www.adobe.com/>

6 その他の情報

クイック・リファレンス

リソース	連絡先 / Web サイト
開発者向けのテクニカル・リソースにアクセスできます。	http://www.oracle.com/technology/global/jp/
インストール・マニュアルにアクセスできます。	http://www.oracle.com/technology/global/jp/tech/install/
サポート・サービスに関する情報にアクセスできます。	http://www.oracle.com/lang/jp/support/
日本オラクル技術営業の連絡先です。	0120-155-096 (受付時間などの詳細は後述)

オラクル製品のインストールに関する情報

オラクル製品のインストールに関する情報およびマニュアルを提供しています。

次の URL をご参照ください。ただし、個々の環境に依存する問題、検証が必要なケースはサポート・サービス（有償）の締結が必要になりますのでご了承ください。

□ OTN インストール・センター

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/>

上記 URL から「テクノロジーセンター」→「インストール方法」をご覧ください。

□ Oracle Technology Network 掲示板

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/>

上記 URL から「掲示板」→「ビギナー」→「初心者の部屋」をご覧ください。

□ インストレーション・ガイド・ダウンロード

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/>

上記 URL から「マニュアル」→「<製品名>」→「<OS>」をご覧ください。

□ 製品 FAQ 検索

<http://support.oracle.co.jp/>

上記 URL から「製品 FAQ 検索」をご覧ください（キーワード：「インストール」、「install」など）。

これらを参照しても解決されないインストール時の不明 / 問題点については支援サービスを提供しています。次のオラクル製品が対象になりますので、次の URL からご質問をお願いいたします。

□ インストールサービスご利用方法

http://www.oracle.co.jp/install_service/

- 対象製品
Oracle Database Standard Edition
Oracle Database Personal Edition
- 対象 OS
Linux x86
Microsoft Windows

Oracle Technology Network Japan

OTN Japan は開発者に必要な技術リソースを提供する会員制の日本オラクル公式技術サイトです。OTN Japan にご登録（無償）いただくと、技術資料、オンライン・マニュアル、ソフトウェア・ダウンロード、サンプル・コード、掲示板、オラクル関連書籍のディスカウント、OTN 有償プログラムなど様々なサービスを受けることができます。

□ OTN Japan 登録方法

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/>

上記 URL から「各種ガイドライン」→「はじめての方へ」をご覧ください。

□ 技術資料

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/products/>

オラクル製品の最新情報を提供します。目標とする技術資料をすばやく参照できるわかりやすいカテゴリーになっています。

□ ソフトウェア・ダウンロード

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/software/>

オラクル製品のトライアル版、早期アクセス版、ユーティリティ、ドライバなどを無償でダウンロードできます。最新バージョンをタイムリーに掲載していますので、OTN Japan で提供している技術資料、ドキュメントなどとあわせて使用することにより、いち早く最新のオラクル・テクノロジーを体験できます。

□ ドキュメント

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/>

オラクル製品のインストラクション・ガイド、リリース・ノートなどのドキュメント（マニュアル）を掲載しています。製品に同梱されているドキュメントから有償マニュアルに至るまで、最新のドキュメントをタイムリーに掲載しています。

□ サンプル・コード

http://otn.oracle.co.jp/sample_code/

開発者がちょっとしたところで苦勞するプログラムのサンプルを掲載しています。オラクル最新テクノロジーに準拠したサンプル・プログラムの数々をお役立てください。

□ 掲示板

<http://otn.oracle.co.jp/forum/index.jspx?categoryID=2>

オラクル製品を使用して開発される皆さんのためのコミュニティです。Web によるディスカッション・フォーラム（掲示板）を通して、オラクル開発者間で情報交換ができます。それぞれの開発ノウハウを共有することで、より効率的な開発ができます。

□ OTN 有償プログラム

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/upgrade/>

OTN 有償プログラムは、OTN 会員様向けの有償アップグレード・サービスです。OTN Japan サイトでご提供している無償サービスに加え、最新のオラクル製品を開発ライセンスでご使用いただける OTN Software Kit（日本語版 CD-ROM）の送付やオラクル技術書籍ご購入時のディスカウントなど、有償ならではの様々なサービスをご提供いたします。

- お薦めサービス「SQL 構文検索サービス」

<http://otn.oracle.co.jp/document/sqlconst/>

SQL 文や SQL 関数をオンラインで参照できる SQL 構文検索サービスです。

- お薦めサービス「Oracle エラーメッセージ検索」

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/reference/msg/index.html>

オラクル製品の使用中に表示されるエラー・メッセージについて検索します。

- お薦めサービス「TechBlast メールサービス」

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/techblast/>

OTN Japan では配信を希望された会員の皆様へほぼ月に 1～2 回メールをお送りしています。新着情報のほか、会員の皆様にぜひともお知らせしたいセミナーやイベント情報、読み物として製品や最新技術に関する連載を掲載しています。

OracleDirect

OracleDirect では、電話とインターネットを通じて、製品ご購入前のオラクル製品に関連するお問い合わせをはじめとする、お客様からの様々なお問合せに対応いたします。

OracleDirect に関する詳細は、次の Web サイトをご覧ください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/corporate/contact.html>

□ お問い合わせ先

TEL : 0120-155-096

Web 問合せ :

<http://www.oracle.com/lang/jp/corporate/contact.html>

※ 受付時間 : 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 18:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)

また、OracleDirect にてお受けできるご質問内容は以下の通りとなりますので、ご連絡の前にご確認ください。

ご質問にお答えできる内容 (概要)

- 製品に関して日本国内で公表されている一般的な内容
 - 出荷日、出荷予定日
 - 価格およびライセンス
 - システム要件

- ハードウェア（メモリ容量、ディスク容量）
- ソフトウェア（対応 OS、対応コンパイラなど）
- 製品の基本機能（カタログに記載されているレベルまで）
- 製品バージョン（RDBMS、Net などの接続対応バージョンの案内）
- サポート・サービス契約の概要

※ サポート・サービス契約の照会、確認、お見積もりはディストリビューションセンターまでお願いいたします。

- カタログ、資料請求、セミナー内容に関するお問合せ
- お客様の個別環境への提案
- 製品概要の説明や応用例、システム構成について営業担当者への直接相談

以下のお問い合わせにはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

- マニュアルに関すること（オンライン・マニュアルも含む）
- 国内未発表の内容（日本オラクルが正式に公表した内容以外のもの）
- 他社から販売されているオラクル関連製品に関するお問合せ
- 技術的な内容（テクニカル・サポート・レベル）

サポート・サービス

オラクルではお客様のシステムの健康状態を維持するために、サポート・サービスをご用意しています。オラクル製品のエキスパートが、様々な形でお客様の問題解決のお手伝いをいたします。

- 障害回避策提示
- 修正プログラムの提供
- インターネット・サポート
- 技術情報の提供 など

Oracle Support のサポート契約をご締結のお客様は、以下の技術サポートを受けられます。サポート・サービスにはインターネットなどによる技術サポートの他、各種技術情報へのアクセス、ご契約済み製品の最新バージョンの提供、Oracle Support NewsLetter（毎月）の提供などが含まれます。

□ 技術サポート

ご契約のお客様は、インターネットなどによる技術サポートを受けられます。

お問合せは、毎日 24 時間受付けております。お問合せの方法についての詳細は、初回ご契約時にお送りする「スタートアップ・キット」をご覧ください。

インターネットでは、次の Web サイトで Oracle Support について紹介しています。

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/>

□ Oracle MetaLink

Oracle Support では、24 時間ご利用いただけるグローバルなポータル・サイトとして Oracle MetaLink をご用意しています。作業効率を高める強力な情報管理機能や、パーソナライズ機能などを備えています。

- 世界中で蓄積された 40 万件以上もの技術情報（英語）
- オラクル製品エキスパートへの日本語と英語どちらも可能な技術問い合わせ
- 24 時間いつでも可能な最新のオンライン・セミナー（英語）
- 自動化されたヘルス・チェック機能や技術問い合わせ情報の統合管理など、先進的なサポート・ツール

□ ナレッジ・ベース KROWN

KROWN は、お客様からの技術問い合わせなどを基にして、これまでに 47,000 件以上の技術情報を収録したナレッジ・ベースです。情報は日々、追加 / 更新されており、常に最新情報を入手できます。

また、製品別 / システム・ライフサイクル別にナレッジを分類するディレクトリ・サービスでは、ライフサイクルの各フェーズで有効な技術情報により、トラブルを未然に防ぐこともできます。

□ Oracle Support NewsLetter

毎月更新されるサポート技術情報や、新しいバージョンの製品情報などを Email または Web でお届けします。Oracle Support NewsLetter には以下の情報が掲載されています。

- 重要技術情報
- 製品パッチ情報
- その他 サポート・サービス関連情報

□ お問い合わせ先

日本オラクル株式会社 ディストリビューションセンター

TEL : 0570-093812

※ 受付時間 : 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)

ディストリビューションセンターでは、Oracle Support のサポート契約について、以下のような情報をご案内いたします。

- 新規サポート契約に関するご相談
- サポート契約に基づくサービス内容のご紹介

- サポート契約書の記入方法
- サポート・サービス料金について

または、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/>

研修サービス

日本オラクルの研修サービスに関する詳しいお問合せは下記までお願いいたします。研修サービスに関する詳細は、次の Web サイトでもご紹介しています。

http://education.oracle.com/pls/web_prod-plq-dad/db_pages.getpage?page_id=3&p_org_id=70&lang=JA

お問合せ先

日本オラクル株式会社 オラクルユニバーシティ

TEL : 0120-155-092

※ 受付時間 : 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)

7 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかしスクリーン・リーダーは括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

